

for your dream—

進路通信

令和2年度 第2号

令和2年 5月20日

東京都立武蔵野北高等学校
進路指導部

4月、5月と休校が続く、かつて誰も経験したことのない事態の中で、HPからの課題のダウンロード、YouTube授業、ZOOM HRと、ムサキタの生徒はよく頑張っていると思います。最近よく言われますが、「大変な時は、大きく変わるとき」。事態を徒に憂いても意味がないので、前向きに新しい波を乗りこなしていきましょう。

志望状況調査も、全員からの提出を受けました。やはり、国公立志望が多いですね。3年生は、2/3の人が、国公立を志望しています。近年の私大難化という背景もあるのですが、誰も経験したことがない未来の社会を生き抜いていかなければならない君たちには、早い時期に科目を絞ることなく、広い視野と知識を持つ学びを続けることは不可欠です。もちろんそうした視点で大学選びをしてきている結果が表れていると思います。



また、理系志望も増えています。かつて不況の時期、理系の就職の良さが評価され、文低理高（文系が不人気、理系が人気で難化）などと言われたことがありました。近年の景気回復に受験生も反応して、文系人気が復活しました。しかし、昨年度からまた、文系の人気にかげりが見えています。受験生はよく社会状況を見ているのだと思います。さらに、この新型コロナウイルスによる大幅な景気後退を受け、理工学系、資格系などの人気上がるのではないかと思います。広く情報を集め、自分の適性や生きたい人生などを考えて、ゆるぎない自分の将来像を描いていきましょう。

年間行事でお知らせした進路行事は、大きく変更されることとなります。学年ごとに、必要な進路知識、経験は異なりますので、新たな状況に応じて、君たちにしっかり情報を与えていきたいと思っています。HPで、「進路指導部から」という情報発信もしています。3年生の「ベネッセによる国公立説明会」ができませんでしたので、ベネッセの了解のもと、パワーポイント資料を説明とともに掲載しています。また、代々木ゼミナールからは、「新テスト入試の知識」、駿台予備校からは、「昨年度の国公立受験報告」を、それぞれHP掲載の許可をもらった上で、毎日載せています。勉強の合間に、ぜひ読んでください。

1 模試について

模試の予定は、年間行事予定にも出ていますし、3年生の模試計画は、「進路通信4月号」にも掲載してあります。それらを年間計画に入れて学習を進めてきてきていると思います。しかし、学校休校のために、5月に行われる予定だった、3年生のベネッセ共通テスト対策模試、河合塾記述模試は延期となりました。学校再開後、順次、実施していきますので、模試にも対応できる学習をしっかりと続けてください。HPでも書きましたが、この時期の模試は、合格判定をみるためにあるのではなく、今自分に不十分な分野を洗い出し、夏以降の学習計画を練り直すためにある模試です。そのため、軽微な計算ミスのようなもの、基本的知識の勘違いなど、学習が不十分であるためにおこすような間違いがないように、繰り返し丁寧に学習していきましょう。今の自宅学習の不安点を解消できるような模試受験となるように取り組んでいきましょう。

2 オープンキャンパスについて

1,2年生は夏の進路課題として訪れる予定であった大学のオープンキャンパスですが、各大学がHPで中止を発表しています。代替措置として、webオープンキャンパスが考えられているようです。予約制の大学もありますから、志望大学のHPは必ずチェックしておきましょう。

3 外部英語試験について

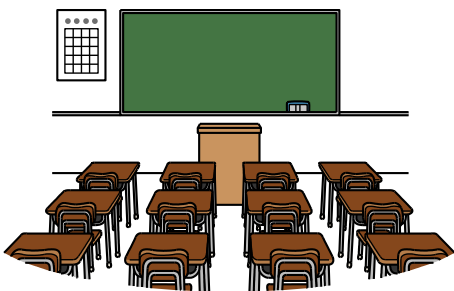
4月には2021年度入試では外部英語試験を推薦や一般入試で使用すると発表した大学も多くありました。しかし、現在、外部英語試験が延期となっている現状で、検討しなおしている大学もあるようです。こちらもHPをしっかりと見ていきましょう。ただ、中止と発表している大学はありませんので、いつ受験が再開しても大丈夫なように、学習を継続していきましょう。1, 2年生は、3年間で計画的にスコアを上げていけるようにしてください。

1, 2年生は・・・

1年生は「進路」といわれてまだ漠然としており、具体的なイメージが持てないでしょう。ムサキタは、ほぼ全員が大学（それも難関大学）をめざしていますが、大学はまず学部選びから始まります。その学部・学科によって、3年進級時に選ぶべき選択科目は異なってきますし、研究テーマに応じて選ぶ大学も異なってきます。したがって、2年の秋頃には自分の進む道をハッキリと決める必要があります、そのためにも入学直後の1学期から考えていくことが求められます。

2年生は、秋の選択科目希望調査に向けて、「どの学部・学科に進むのか」「何を学ぶのか」と「どの大学を選ぶのか」をいよいよ具体的に考える必要に迫られます。十分に考えを深めてきているでしょうか。もちろん、職業から大学の学部・学科を選択するという方法もあります。しかし、将来どんな仕事に就くかまだ全然イメージできないという人の方が多いでしょうし、高校生の時に知っている職業に就く可能性を考えたら、職業に限定すると自分の将来の可能性を狭めてしまうことになるでしょう。一番望ましいのは、大学の4年間（あるいは一生）自分が興味を持って学んでいけるものを選ぶといいでしょう。しかし、「何に興味があると言われてもよくわからない」という人もいるでしょう。

これを考える材料は、じつは生活のあらゆる場面に転がっているのです。たとえば、「英語を話すのが好き」「洋服の流布ってどうなっているんだろう」「歴史の授業を聞いていたら面白くなってきた」「ひたすら計算をしたい」など、また、家族との会話、個人面談での担任との話、TVのニュース、新聞記事、いろんなところで、ヒントが与えられることもあります。以前、新聞を切り抜いた記事を貼ったノートを毎週見せに来てくれる生徒がいました。特段のコメントもなく切って貼るだけのノート。でも、彼女が切るもの、貼るものは、虫と女性の自立に関するものが多かったのもそんなコメントを伝えました。彼女は、その後、生物のAO入試を受けて筑波大学に進学していきました。自分が何気なく見てしまうもの、選んでしまうものには、自分の好みや興味や価値観が反映されていくものです。スクラップという記録をとることで顕在化してきたのでしょうか。



また、2年生を対象に行われる予定だった「大学模擬授業」や夏休みに多くの大学で開催されるオープンキャンパスもいい刺激です。今年は方法を変えて実施しますが、Webや本など代替するものはいくらでもあります。「なんでもやってみよう」「知っていこう」という意欲を持ちアンテナを広く張り巡らして、自分の可能性をさぐることを心がけてほしいと思います。また、大学進学に向けて、1年生のうちから入試制度（入試のしくみや必要な準備など）についてしっかり研究して理解して

おくことも重要です。

☆受験が終わってから、先輩たちはたくさんの言葉を後輩に送ってくれました。今回は今年の場合で参考になるところだけにしました。学習方法などを詳しく見たい人は、昨年度のHPを見直してください。来年は君の番です！

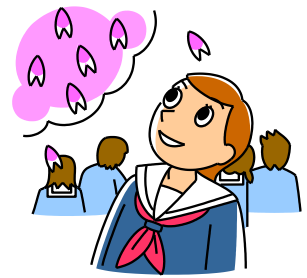
◆学習計画の立て方・・・

・先輩の合格報告会の後、「自分が1年後、合格して報告する立場になる」という前提を立てた。そこから「合格のために得意科目で満点を取ろう」「そのためには夏休みまでに単語をこれだけ覚えよう」「そのためには今月は1日〇個ペースで〇周しよう」…という風に、「合格」というゴールを見据え逆算的に計画を立てた。また、継続する力がなかったので「勉強を習慣化して、意識がなくても勝手に勉強するようにする」ということを意識した。（横浜国立大学 経営学部）

・春休みにウィークリーの手帳を買い計画や学習記録を書いた。最初はざっくりとした計画、週ごとに詳しい計画、模試ごとに自分の弱いところ潰せるように計画を立て直した。特に国公立は5教科7科目全てに時間が振り分けられてるか確認しながらやらないと危ない。(横浜国立理工化学学生命バイオ教育)

・小テストの勉強はしっかりした。1,2年のときに学習習慣をつけておくべきなので、少しでもいいから毎日コツコツ勉強したほうがよい。とくに単語等。

(横浜国立大学 教育学部)



◆模試の活用方法

・模試で何割取ればいいのかセンターから逆算し目標を立てそれに向かって具体的にやることを決めた。模試は復習をして、次に同じ問題又は類似の問題が出た時に間違えないようにしていた。(横浜国立 国際教養)

・間違えた問題だけを集めたノートを作って、いつでも見直せる様にした。(東京学芸大学 教育学部 初等国語)

・模試は結果よりも、自分の足を引っ張っている教科を分析することが必要。何の勉強をしていいかわからないという時期もあったが、模試で課題が見つかり勉強計画も立てやすい。不安に駆られた衝動で勉強に取り組むよりは、まず模試をみて教科ごとの勉強計画を立てていくことが良い結果に繋がる。(東京学芸大学 教育学部 B類 中等教育教員養成課程 理科専攻)

・模試を受験本番だと思って臨んだ。「前日から持ち物準備、昼食は受験当日に食べるものと同じもの」等を心がけていた。いざ本番を迎えた時に「大丈夫。いつも通りだ。」と自分に言い聞かせることができた。

(横浜国立大学 経営学部)

◆後輩へのアドバイス

・友達には「無理でしょ」と言われたし、父からも「記念受験にしろ」とまで言われた。それでも絶対諦めずに勉強したら合格できたので、今の自分と志望校にどれだけ差があったとしても、誰に何を言われたとしても、「第一志望は、譲れない」です！ 譲らないでください！努力次第でどうにかかります。(慶應)

・私は1年生の時数学に躓いた。今は忙しいからと苦手を後回しにしていたら、あっという間に受験を意識する時期になった。立て直しはとても大変だったから、少しでも疑問や不安を持ったなら、すぐに解消すべき。早くから道を狭めるのではなく、私のように数学が苦手でも継続すれば出来るようになるから、無限の可能性を潰さず諦めないで。(埼玉大学 教育学部)

・センター試験を受けてもいない段階で受からないかもしれないと不安から第一志望校を下げるのは良くない。第一志望校に行きたいという気持ちが受験を乗り越える最大のエネルギーになる。(東京学芸 教育理科)

・私は国立大学の公募推薦で合格を勝ち取った。志望動機作文と面接、センター試験が課される受験方法だったが、私は話すことが得意だったから面接で自分の長所を大学側に見せることができた。夢や志を持つことでより大学に行きたいと思えるようになる。ムサキタには将来を考える機会が沢山あるから自分を見つめて進路を決めるべき。(埼玉大学 教育学部)

・どんな受験生でも最も大事なことは「自己分析をすること」と「目標を持つこと」だ。自己分析をして自分に何が足りないのか、何の科目をどのように伸ばすべきなのか、合格するために必要な学力とのギャップを埋める最短距離を進むにはどうすべきなのか、こういうことを考えられると自ずと合格に近づく。目標がなければ推進力は生まれない。おすすめは自分の志望校を周りに言うこと。周りに言って志望校へ意識をしざるを得ない環境にしてそこに自分を置くことで気持ちを強く持てるし、自分に妥協を許さなくなる。勉強は「受動的」と「能動的」な学習をバランスよくすることで最大の効果を発揮する。授業で8割理解(受動的)予習と復習で2割理解(能動的)を意識していた。予習は教科書を読み「わからないところ」、「面白そうだなと思うところ」を見つけることを意識し、復習では授業でやった問題と類似問題を問題集で見つけてやると効果的だ。

3年の4月くらいは合格のための計画を考えていた。どの時期に過去問をして、その過去問をする前にこの参考書をやり終わるといった大まかな学習計画を立てた。夏休みから12月まで国数英の過去問と物理化学の授業理解に努め、12月からはセンター試験の勉強をした。センター比率の高い都立大学や学芸大学の志望者はもっと早い段階でセンターの練習をするのをおすすめする。学力は現状維持するのが一番難しいことを覚えておいてください。数日英文を読まないだけで読解のスピードは落ちるし、古典の単語も数日で抜け落ちる。学力維持のコツは毎日少しずつすることだ。学力維持を続けてちょっと伸びたらラッキー

くらいの心持ちでマイペースにしてください。学力の伸びも個人差があるし、1日で急に伸びるわけでもない。決して焦らず、弛まず、あきらめず、謙虚に努力を続けて欲しい。(京都大学医学部人間健康科学科)

・志望する大学に記述式の問題がある人は、国語力と思考力がすべての根幹を成す。(理系でも英語で国語力が露呈します。) 特に和文英訳や英文和訳があるところでは、より国語力が鍵となってくる。わからない言葉が出てきたらその都度、国語辞書と漢和辞書に当たろう。(大阪大学)

・大学受験は長く辛い戦いです。思うように成績が伸びず不安になったり、勉強したくなくなったりします。そんな時、一緒に学ぶことの出来る友達がいたということが大きな支えになりました。私はずっと苦手だった国語と数学に最終的に助けられました。今まで悪い点しかとれていなかったのにセンターで1度も取ったことのない点数を出しました。苦手な科目も諦めずにやり続け、バランスよく全ての教科ができるのにした方がいいです。そして、センターリサーチで悪い判定が出て逆転の可能性があると思います。

(東京都立大学健康福祉学部看護学科)

・行きたい！って気持ちを大切に！ (以下 私の受験期モットー) 逃げない、挑む。笑顔で、楽しむ。焦らない、ビビらない。最後まで諦めない。未来の自分に後悔させない。今、自分にできることを。(東京外国語大学 言語文化学部)

昨今考えたこと 閑話休題

新型コロナウイルスにより、学校から生徒たちの歓声が消えてずいぶんとたつ。出勤することもできず自宅にいても長らくとなつたが、このような状況の中でもだんだんと慣れてきている自分に気づく。人間というのはずいぶんと適応能力が高いのだなあ、妙な感心をしたりしている。もちろん、志村けんさんや、岡江久美子さんの御逝去には本当に驚いたし、改めてコロナを恐ろしいと感じたりしている。ほとんどテレビを見ない生活をしている私でさえお名前を存じ上げている有名人である。日本中に与えた衝撃の大きさは計り知れないだろう。

ところで、このような状況下、耳について離れない言葉がいくつかある。その一つが、「自粛」である。

「自粛」という言葉は、「自分で自分の行いを慎むこと by 広辞苑」という意である。当たり前だが、その判断主体は「自分」なのである。「天気が良くて運動不足だし、少しなら外に出てもよいだろう。」と思う自分自身に対して、「いやいや、まだ沈静化には程遠いから、外出を我慢しよう。」と思う。これが我々一般人の自粛なのだが、これがなかなか難しい。もし誰かに「外出してはいけない」と強くいってもらえれば、その言葉に従って外出しないようにするにしても、反発して外出するにしても、どちらにしても、決断が楽な気がする。すべてを考えて「自分」で判断しなければならないとなると、ほとんど困ってしまう。どうすればいいのか、どうすれば他人から非難されずに済むか、と思ひ迷う。そして、どんな行動をとるにしても、その行動の責任はすべて自分にある。

「自粛」という言葉は、言う側にとってはずいぶん都合の良い言葉ではないか…。「自粛」なのであるから、その行動の責任は、その人にあるのであって、「自粛」を言った人にはない。「自粛」なのだから、するかしないかは、その人の判断なのだ。その点では、以前流行った「自己責任」という言葉と共通するにおいがして仕方がない。そういえば、「自己責任」という言葉を使って、一時、ものすごいバッシングがあったが、今も、感染者や、なんと医療従事者に対する社会的スティグマがものすごい勢いで発生しているという。「自粛要請」やら、将又(はたまた)「自粛警察」などという、わけのわからない言葉まで出てきている。私たちは、どうもすぐに「正義」を背負ってしまう生き物らしい。

話がそれてしまったが、ともかくこのご時世、否が応でも「自分」の頭で考え、「自分」の責任において、「自分」の行動を決定していかなければならないのである。本当に大変なことだが、考えてみれば当たり前なことでもある。『「自分」の頭で考え、「自分」の責任において、「自分」の行動を決定していく』ということは、つまり、〈自立する〉ということなのだから。

学校という社会では、「将来のため」という言葉がよく使われるが、リーマンショック以上の不況といわれる今、多くの大企業が倒産しかねない今、何が「将来のため」に正解なのかは、本当に分かり辛くなってきている。だからこそ、今後どうなるかわからない「将来のため」という言葉に必要以上に振り回される必要はないのではないかと。「将来」のために、今これをやっておく、ではなく、その逆を考えるのはどうだろう。

未来、そして将来は、今の積み重ねの上にある。今を充実させていき、その上の未来であり、将来であれば、決して後悔することはないのではないだろうか。いや、後悔はするだろう、人間とはそういう生きものだからである。しかし、今が充実していれば、その後悔も、笑って語れる類の後悔となるのではないだろうか。将来に対して不安を感じるのは当たり前である。予測がつかないのだから。だからこそ、無駄に将来に対して不安がるよりは、今できるだけのことをして、今興味を持てること、今やってみたいことに果敢に挑戦してほしいと思う。(もちろん制限付きだが…)今を充実させるということは、自堕落に時間を使うということではない。世の中の価値観がどう動こうと揺らがない「自分」の価値観を構築してゆくということだ。誰かの価値観に乗っかってしまうと、結局は世の中の動きに動揺せざるを得なくなってしまう。他にもない、「自分」の価値観を作り上げられれば、世の中がどのように変化しようが、対処できるだろう。

例えば来年の入試にしても、なんだかわからない中でころころと変わり振り回されてしまったし、ひょっとして9月入試、などということも言われ始めている。不安になって当たり前の状況ではある。しかし、入試は、その時の自分の学力を計るもの、ととらえて、ともかく今の自分の力を、今できる限りにおいて伸ばしていくことを考えれば、今やらなければならないことは見えてくるのではないだろうか。少しでも自分にとって有利に、効率的に、と考えるのは当たり前ではあるが、今は学問の王道に戻ろう。(注 ここでの「王道」は基本の正しいやり方。「学問に王道なし」の「王道」は楽な道。老婆心だが注として付け加えておく)時間をかけて、基礎を押さえ、コツコツと学ぶのである。それが学問の王道だ。それによって本当の実力が付く。本当の実力がつけば、どんな出題形式のものであれ、解答できるはずである。

話を戻そう。「自分」の価値観である。「自分の価値観」はどのようにしたら作れるのか。それは勉強するしかない。多くのことを知り、多くのことを学ぶうちに、何が大事なのかが見えてくる。自分の好きなものに気付く。好き嫌いをなくすことが、本当に自分だけの「すき」を探す唯一の方法なのだ。多くの人の意見を聞き、たくさん考えて初めて自分の意見が持てる。「個性」とは多くの人々との交流(=多くの学び)の果てに自然と生まれてくるものだ。この世で直接会える人、直接体験できることは限られている、しかし、書物の中であれば、実際に会える人の何十倍、何百倍の人に会い、意見を聞くことができる。「知る」ことは楽しいことだ。「学問」は人間を自由にしてくれる。そして、長々と書いてきたが、結論である。『「無知」は罪悪』なのだ。上に記した「社会的スティグマ」も結局は無知から生まれている。本当に危険なのは何なのかを知らないから、「敵」を作り出し、無駄に怯え、「攻撃」してしまい、結果として、感染を拡大してしまう。正しく思考し、正しく行動する。難しいが、私たちには今、それが求められている。

さあ、責任をもって、強い意志の下、もうしばらく「自粛」しましょうか。

進路部・国語科 蛭谷

データを読もう

右上図は本校ホームページにも掲載されている国公立大学、早慶上理、GMARCHの合格者数の過去4年の推移です。実線の国公立大と早慶上理は左縦軸、破線のGMARCHは人数が多いので右縦軸で描かれています。2018年から私大の定数厳格化のため私大合格数が減少しています。「定数厳格化」とは、文部科学省が私立大学への補助金支出の条件として定数を大幅に上回る合格・在籍を行わないように指導したため、私大が合格者を絞るようになったことを示します。概観すると早慶上理の減少幅と国公立大の増加幅が同じくらいと読み取れます。ところで、この図は厳密には受験総数の推移になります。国公立を1人で2回合格することは稀です(前期合格の入学手続きせずに、後期受験・合格はルール上できます)が、私大は一人で同一大学の複数の学部合格、同一学部の複数入試での重複合格、同一人が早慶上それぞれでの合格などがあります。国公立大でも、受験者数のグラフは前期と後期の重複で実際の人数より多く見えることもあります。

右中図は国公立、早慶上理、GMARCHのそれぞれのグループを一つ以上受験した生徒の「人数」を集計したものです。学年定数は240人ですので、受験率の変化を見ると、GMARCHは83%→68%に減少、早慶上理は58%→33%に減少、国公立大は33%→63%に増加していることがわかります。

右下図は早慶上理、GMARCH受験者に占める私大専願者の割合

です。いずれもかつての半分に以下に割合が低下しています。かつては早慶上理の合格者の7割は私大専願者でしたが、最近では5割以上が国公立大学との併願者になっています。急速に本校の受験のパターンが変化していることになります。

7科目の準備をしながら、難関私大の難問にも挑戦するのは長期的な準備が不可欠です。

受験は目標設定力、計画立案力、実行実践力の三つの力で目標に到達できます。自分の時間計画の自由度が大きい今年度、計画立案力、実行実践力を磨いていきましょう。

